



有限会社プロシードサカキ

事業取組みの経緯

ボタン付け工程は、耐久性やボタンの高さなど細かい作業であり、熟練者に依存している状況にある。また、手作業で非常に生産効率が悪く、人によって仕上がりが異なり品質の均一化がされておらず、外注先においても同様である。また、原反からデザイン・縫製する「自社ブランド」での製品を考えており、そのためにも生産工程の改善と効率化が課題となっていた。

事業内容

当社は、メーカーから原反を預かり、婦人服等に縫製し納品している。これまでボタン付けの工程は、外注と手作業において行っていたため多くの時間を要していた。そこで、ボタン付けミシンを導入し、生産体制の改善と自社ブランド製品販売への体制づくりを構築した。[取扱い商品：婦人服全アイテム、学生服（セーラー、ワンピース、ジャケット）]



高速電子単環根巻きボタン付けマシン

平成29年度補正 ものづくり技術

ボタン付けミシンによる生産体制の改善と 自社ブランド製品販売へ

現在、ボタン付け工程を手作業と外注によりこなしている。そこでボタン付け工程を自動化し、生産体制を改善する。また、ボタン付けまでを自社でこなすことで衣服の縫製の全工程を自社で消化し、自社ブランド製品の生産を目指す。

事業成果・達成要因

高速電子単環根巻きボタン付けマシン導入により、手作業で4日程度の工程が2日程に短縮され、生産性が向上した。外注要員が減少しており、大きな戦力である。また、品質の均一化・安定仕上りで品質が向上し、やり直し作業も減少したため、メーカーからの信頼がなお一層厚くなった。



(左上) 工場内全景
(右上) 学生服（セラー）
(左下) 婦人服（縫製品）
(右下) 作業風景

今後の取組み

CAD・CAM方式の自動裁断機を導入して生産効率を高め、品質の高い高級婦人服のアイテムを広げたい。これにより、委託先を拡大し加工賃の下落に歯止めをかけたい。同時に自社ブランドの商品開発の体制作りに注力していく。また、従業員雇用の確保のためにも大きな課題となっている事業承継を検討していきたい。



令和ものづくり元年

未来創造 POINT!

品質第一、社員第一

[専門家からのアドバイス]

下請けからの脱却のため、自社ブランドの商品開発を見据えているが課題も多くリスクも高い。一貫生産の縫製工場に徹して委託先を開拓するのも一つの方角である。いずれにしても、ホームページなど外部発信力の強化が求められる。事業コンセプトなど後継者との議論を深め、時代に合わせた経営戦略を再構築すべき時期であろう。

企業 PR

昭和53年、仲間6名と創業し、平成2年法人化した服作りのパイオニア集団であり、婦人服、学生服を生産しています。全国で縫製工場の減少が続く中、当社は「一貫生産」が可能な数少ない工場です。従業員38名の内パートは3名だけであり、従業員の定着率も高く、特に高品質の婦人服の生産を得意としています。



社屋外観

企業概要

事業者 有限会社プロシードサカキ
代表者 代表取締役 榎 健一
設立年月日 平成2年6月5日
所在地等 〒895-1816 鹿児島県薩摩郡さつま町時吉1975-1
TEL:0996-52-2660/FAX:0996-52-2446

資本金額 300万円
従業員 38名
業 種 繊維工業